



今回の課題は、「現代を描く冬の風物」。

季節的テーマは、これまでも多くの課題として行われ、また、川柳歳時記、川柳歳事記などとして纏められてもいる。

ここで、拘りたいのは、「今」を捉えることであり、新しい時代の歳事記を皆で作っていききたいという思いがある。

ここまで書けば、意図はお判りいただけたと思う。あくまでも、選考のモノサシは、「今」をどう捉えるかということに

添削・選評  
を武洞

重点を置く。これは、公募川柳などでも同様のことだが、どんなに上手いことを言っても、時代の空気を捉えられない作品は、単なる句会における競吟では上位になっても、社会を讀者とした作品では、どうしても色が褪めて見える事になる。さて冬の風物を開けてみよう。

〈クリスマス〉

集句の多かったテーマ。

1 仏教徒2日間だけクリスマスチャン

- 2 お土産<sup>みやげ</sup>買ひ赤鼻サンタが帰宅する
  - 3 華やかなけれど冷たいクリスマス
  - 4 捨てメアド サンタクローズドットコム
  - 5 キリストもビックリこいたクリスマス
  - 6 クリスマスマサンタが来たの5年前
  - 7 バブル期の賑わいはずこクリスマス
  - 8 父帰る娘帰らぬイブの夜 和則
  - 9 クリスマスキつと老後も独りきり 伯林
  - 10 アラフォーが犬吠埼でイヴの夜
- 1と2は、一応句として纏まっつてはいるが、特に「今」の句ではない。3は「華やかなけれど」の用語法に無理がある。4はちよつと面白い。「捨てメアド」という新しい風物に目が行ったが、残念ながらそれ以上にニンゲンが描かれなかつた。5と7は、現代の経済事情や気

象を言っているようだが、表現として弱い。その点、8には、明確な社会風刺があり、9には、「おひとり様」が流行語にもなった現代と作者自身の心理を伝える。川柳には、表面的意味だけでなく、読者が入り込むことのできる内容をもちたい。前田雀郎は、それを「一句の客間」といった。

10も「アラフォー」などという流行語を取り入れて面白いのだが、「犬吠埼」という場所に限定がある。もつと、ピツタリとした地名が他にありそうだし、この部分を他のコトバに変えても句が成立する。いわゆる「動く句」というもので、その場限りの句会なら通用するが、文芸としての表現では甘い。

## 〈木枯し〉

- 11 木枯らしよ君も相当音痴だな 英樹  
12 木枯らしに肩をすくめる占い師  
13 電線の小鳥が歌うもがり笛  
11、13は比較的よく出来た作品だが、  
いずれも「今」を捉えていない。12の占  
い師と木枯しだけでは、もう句にならない  
い。そんな中、11の句は、「も」という  
接続詞と呼びかけ（頓呼法）により作者自  
身の姿が見える。これは合格。

## 〈雪〉

- 14 湯につかり冷酒をあおる雪景色  
15 雪ダルマ片目を入れて春を待つ  
16 霜やけが上書きされる雪遊び  
17 アスファルト雪を拒否してまた孤独  
18 ピエロからボナネのカードパリは雪

- 19 ゲレンデに派手なウエアがまた転ぶ  
20 夏が秋 食って三季のニッポンに  
21 革ジャンとTシャツ姿で交わす酌  
22 ゲレンデに積もらせているカキ氷  
23 スキーなど出来なくなつた亜熱帯  
24 張りぼてで造る札幌雪まつり  
25 初雪が送信トレイに待機する 長久  
26 限界集落たわわな柿に雪 祐子  
27 携帯の中で溶けない雪だるま 金身羅漢  
雪やスキーも多かつた。確かに冬の風  
物である。これを客観的に説明したので  
は句にならないことはご存知の通り。14  
は19には上手い句もあるが、「今」から  
は少し遠い。20以降は「今」の句である。  
20は、下五の据わりが悪い。内容だけで  
なく川柳では形式的完成度も重要。24は、

いかにもありそうで風刺的だが惜しい。このテーマでは、25のケイタイによるいかにも今風なデジタルな交流、26の目に浮かぶような描写と皮肉がいい。中でも27の「携帯の中で溶けない雪だるま」は、現代社会におけるバーチャルな世界と実生活のギャップが作者の心理を通して描かれている。あの時作ってしまった雪だるま（これは象徴）は、作者の心の中で何時までも溶かし去ることができない。

### 〈鍋〉

- 28 鍋に爛よくぞ日本に生まれけり  
29 一見の客に鎮まるおでん鍋  
30 携帯を片手につつく独り鍋 楽人  
31 鍋の具は肉も野菜も多国籍 澤磨育  
もう、余計な説明は不要だろう。28、

29は、見てのとおり風俗。風俗と言っても特に「今」に拘りがない。30は、「ケイタイ」「独り」に今風を感じられるが、作品としては主張が弱い。31には「多国籍」に皮肉が感じられるが、すでにコトバとして手垢を感じてしまう。鍋では、なかなか今が捉えにくいのかもかもしれない。

### 〈気になる句から〉

多少、細かく見てきたので紙幅の都合上、全部の句に評を加えられない。「今」の意識については、前項までを参照。

- 32 どんぐりの老後落葉にくるまれる 迷留  
33 しもやけとあかぎれのない冬となる 春爺  
34 灰色に融け込む冬のホームレス 楽人  
35 Re: の奥にある一月の流行語 飯島章友  
いずれも面白い。32のどんぐりは、作

者の自嘲でもあり庶民でもあろう。落葉が居心地良いか悪いかは政治次第。見方によつて諷刺となる。33は、温暖化の結果。過去の既成概念による「冬」とは、似ても似つかぬ新しい冬。これは、現代の不安でもある。34は、冬の情景のスケッチであるが、しつかりと見詰め、社会から色を失つて忘れ去られそうな対象にスポットを当てる。35は、まったく新しい視点。次々と生起する流行。しかし、その背景には、返信、返信の返信、……と繰り返される社会における軽さが「Re:」という記号に象徴され、しかも「一月」と断定したことが主張を明確化する。新たな年の一月でこそその流行で、月を重ねるに従い、「Re:」は不易化してしまふ。

逆に惜しい句として、

36 冬なのに夏の余熱で湯気が立つ

は、上五中七までは実に期待させるフレーズとなっているが、下五で因果を言つてしまった。ここに、「今」ならではの

「湯気」を見出せばイイ句になつたろう。

37 街路樹の電飾あるいは誘蛾灯

これもテーマとしては面白い。どうして「4・4」と切れる中八構成にしてしまったのだろうか。これでリズム感が損なわれた。「あるいは」が思わせぶりで、ここに電飾と誘蛾灯の「今」における必然性を匂わせて欲しい。

38 ご破算をして新風と取り替える

39 フロップピー暴れ一回フリーズす

40 それぞれに装った路地の足音

38 ～ 40 は、見ての通り「冬の風物」の題意を満足していない。「題詠」においては、題から触発されるテーマが句となるとはいえ、「フリーズ」で「冬の風物」は無理だろう。

41 指先で線香花火する冬夜

句としては、悪くない。しかし句会的で「指先で火花する」のような比喩は常套的。「線香花火する」も似たような位置にあると思う。

なるべく深く句に迫ったため、従来のように多くの句に触れきれなかったが、自分の投句も、これらの評に準じて考えていただきたい。

「今」だけでなく、多少風俗も加えたが、このテーマでの入選句は以下の通り。

課題「現代を描く冬の風物」

携帯の中で溶けない雪だるま

金身羅漢

Re: の なる の

る ら の

な に雪

\*

木枯らしよ君も相当音痴だな 橋立英樹  
どんぐりの老後落葉にくるまれる 迷 留  
しもやけとあかぎれのない冬となる 春 爺  
廃色に融け込む冬のホームレス 白川楽人  
クリスマスきつと老後も独りきり 伯 林  
初雪が送信トレイに待機する 長 久  
ロングブーツおんな益々強くなる 高齋ゆみこ  
チャンチャンコ着てお犬様通り過ぎ 浦田栄七